

武蔵中-対策法

理科・社会（理社合わせて100点/60分）

【1】【2006年出題内容】

①社会(富士山の噴火)、②地学(大地の変化)、③生物・物理・化学の一行問題、④その他(ネットの網目の形)、が出題されました。出題形式については、まず次の問いを見てください。2006年の①問1、問2と、③[1]です。

問1

(あ) 右の地図の海岸線を完成させなさい。
(→印と←印の間にえがきなさい。)

(い) 同じ地図の中に次の4つのことがらを
記号で書き入れなさい。

- ・富士山 
- ・小田原 
- ・江戸 
- ・江戸時代の東海道 



問2 ①、②、③の文章を書いた人がいた場所と富士山との位置関係をよく考え、噴火の受けとめ方について、気がついたことを書きなさい。

3

次の各組の(ア)～(エ)の4つのうち、3つには共通点があります。残りの1つが何か記号で答え、そう答えた理由も書きなさい。

[1]

- (ア) 食塩が水にとける
- (イ) 氷が水にとける
- (ウ) 二酸化炭素が水にとける
- (エ) アルコールが水にとける

記号

理由

【2】 【 傾向と対策 】

問1のような問題に対処するためには、日本地図を正確に再現できることがどうしても必要です。ただ、武蔵の問題は単なる暗記を求めているわけではありません。理科・社会は、身近な事象に対する分析力を養う科目です。そして、身近な事象に対する分析力を養うためには、まず分析対象を正確に把握しなければなりません。ですから、地理でいえば、まず日本地図を正確に再現できる必要があるのです。

また、武蔵の理社では、問[1]にみるように、必ずと言っていいほど理由説明が求められます。つまり、実験・観察を通じて得られた結果から一定の結論や法則を導き出し、それを別の事象にあてはめる力を求めているのです。しかし、問題文が決して長くないので、何を聞かれているのが分からず、いたずらに時間を浪費してしまう場合もあります。入試では暗記も絶対に必要なのですが、理由を考えることによってそれまでバラバラだった知識が有機的につながりをもつことがあります。ですから、平日頃から些細な疑問であってもそれをほったらかしにせず、調べたり先生に質問したりして必ず解決するようにしましょう。

さらに、問2にみるように、「気がついたことを書きなさい」という問いもあります。こうした問いに対処するためには、一般的には、多くの体験や実験を通じて、時事問題や身のまわりの事象に親近感をもっておくと助けになるはず、と言われます。しかしそれよりもっと重要なことがあります。「唯一絶対の答え」を求める人は、武蔵の問題に向かないということです。「気がついたことを書きなさい」とあるのは、唯一絶対の答えを求めているのではなく、考えが論理的に一貫していれば点をあげるよ、というメッセージだからです。教わったことを応用する力も大切ですが、自分の考えを説得的に表現する力も大切なのです。

【3】 【 武蔵の理社 合格への道程 】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

偏差値 (四谷) 君の学年	46~50	51~55	56~60	61~65
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

武蔵の 80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値 61 以上、センター模試で偏差値 63 以上、サピックスで偏差値 53 以上、が目安です。

武蔵の理社は暗記だけでは対処できません。そのため、早うちから日本地図や歴史年表を頭に入れておかねばならないのです。少なくとも、小学校 5 年生のうちに偏差値 56 以上に安定させておき、その上で作業や調べものの時間を確保するのが理想です。また、武蔵の理社の過去問の分量はさほど多くありませんから、できるだけ早く目を通しておき武蔵の視点をつかんでおきましょう。